

アンケート集計結果

2019年8月8日開催

「精神科病院の理解」～明日の支援につなげるために～

当日参加者	90名
・介護関係職	72名
・医療関係職	18名

アンケート回収数	73
アンケート回収率	81%

1.あなたのことをお聞かせください

介護関係職	54名	74.0%
医療関係職	16名	21.9%
その他	2名	2.7%
無記入	1名	1.4%
計	73名	100.0%

2.本日の研修会を聞いて「精神科病院」について理解できましたか？

・よく分かった	19名	26.0%
・分かった	41名	56.2%
・よく分からなかった	4名	5.5%
・分からなかった	0名	0.0%
・その他	4名	5.5%
・無記入	5名	6.8%
計	73名	100.0%

【その他の意見】

- ・精神疾患について理解できた。
- ・病院の流れや治療についてはよく分かったが、紀の川病院のことが分かった。
- ・なんとなく分かった。
- ・口頭だけの説明だと、スピードについていけない時がありました。資料に記載いただいたらもっと理解しやすかったかなと思いました。

研修会

「精神症状がみられる方への支援や、精神科病院との連携について？」

今回の研修会では、実際に病院で働く精神科認定看護師の方にお話しを聞かせていただきます。上記のような不安や疑問に感じたことを解決するきっかけになるかもしれません。ぜひご参加ください。

- 日時 2019年 **8月8日(木)**
14:00～16:00
- 場所 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 1201会議室
和歌山市手平2丁目1-2
- 対象 在宅医療・介護関係者
- 講師 医療法人育本会 紀の川病院
看護部副主任
精神科認定看護師 **前田 友子** 氏
- 定員 90人(事前申込要)
- 申込方法 参加申込書(裏面)に必要事項を記入の上FAXをお送りください
- 申込締切 **2019年8月1日(木)**

和歌山市第4在宅医療・介護連携推進センター
〒640-8303
和歌山市境神123番地の1(徳業法人福寿会 中谷病院併設)
TEL:073-473-2863(平日9:00～17:00)
FAX:073-473-0864



3. 精神科病院と地域の連携を深めるには、どのような取組みが必要だと思いますか？

(自由記載)

- ・精神科に限らず、こちらからも出向いて医療機関と連携します。部署が分かり良かったです。
- ・精神科病院という名が受診しづらさを感じさせているように感じる。気軽に聞かれる周囲の環境がもつとあればと思う。
- ・精神（メンタル）専門の訪問看護の参入や利用。地域包括支援センターの保健師の関わり。地域住民に対して知っていただく為に講座の開催等。
- ・精神障害の特性や医療体制を知っておき、必要時すぐに対応できるようにしたいと思いました。
- ・精神科のことをより深く自分が知ることが大切だと思いました。
- ・どの程度の症状で相談できるのか。ケアマネの精神科病棟、精神疾患に対する理解を深めることも必要と感じました。
- ・お互いの情報交換。
- ・情報交換がやはり大切ではないかと思います。退院時カンファレンスに参加していないこと（ケアマネジャー）があるということには驚きました。在宅では、精神専門の訪看が必ず入るとは限らないと思うので情報の提供は大切だと思います。
- ・チームケア。
- ・本日のような研修会を通じて顔の見える関係作り。
- ・今回のような研修や交流する機会が定期的であればいいと思います。
- ・精神科病院についての市民セミナー等の開催があればいいと思います。
- ・精神科病院の窓口がどこか分かるように一覧表を作る。
- ・精神科病院に行かないという方を治療にうまく繋げられるよう、病院と地域の橋がけとなる機関が必要だと思います。
- ・統合失調症の方の対応の方法が必要。
- ・精神科のことをよく知りたいと思う。注意サイン＝眠れなくなるのが多い。精神科に勤務しているナースに薬さえ飲めたら家に帰れるのにとっていたことを思い出した。
- ・精神科はあまり知られていない事が多いため、講演会などを実施し、周知される事により関心をもって相談しやすい環境を作ればいいと思います。
- ・今回は精神科の看護師さんが出てきてくれたので、こんな機会は初めてだと思います。こういう機会がもっとあればと思います。（ほかの病院の方にも出てきて欲しい）
- ・情報交換の場が必要。
- ・地域住民等へのセミナーを行うなど、外部の方とのかかわりを多くすれば・・・
- ・とりあえずコミュニケーション。情報交換。相互理解。
- ・偏見や誤解がまだまだ残っている状況。住民や一般の方に共生に対する意識をもって頂けるような活動が必要。
- ・まずは精神障害のことをよく知ることが必要だと思った。
- ・精神的な病気は本人以外理解できないことが多いので、病院での取組みに参加したり、一緒に受診同行して先生と話をして理解をするようにすることから連携をしていくことが必要と考えます。
- ・精神科と聞くと、悪いイメージを持たれる方が多くいると思います。医療と福祉の連携は一般病院というイメージがありますが、精神病を患っている方が増えてきているように思うので、このような勉強会はこれからも必要だと思います。

- ・医療、介護の隔たりなく、協力し合える環境作り。
- ・精神科病院と聞くと昔のままのイメージがあるのだと思います。セミナーなどを通し、病気への正しい理解や病院のイメージ改善に取り組むことが必要と感じました。
- ・情報提供、収集を確実に実施。事業所内での会議にて事例検討。研修等に参加し自己研磨等・・・
- ・精神科のイメージとして、他の病院とは違う異種のイメージが強くあると思われる為、今回のような研修で、病院としてどのような取り組み、どのような環境なのか知る機会を作って頂くことで、連携を取りやすくなるのではと思います。
- ・精神症状についての研修をもっと開いて欲しいと思います。
- ・地域連携室を設置し、情報の共有や、本日のような研修会を聞き、交流を持ったりすると良いのではと思います。
- ・市報だよりなどへの紹介など。
- ・看護師は病棟内だけの勤務だけでなく、積極的に精神科訪問看護や介護保険などの社会資源に目を向けて入院した時から社会復帰のことを視点にいれ、事業所と早期に連絡を取り合う方がよいと思います。
- ・研修等を通じての交流。
- ・相互情報交換。
- ・まずは精神病院、精神病に対する地域への啓発、情報発信が必要である。色々なニュースで精神病＝危険な人のような偏見がみられる。生きづらさを感じておられる方も多いと考える。
- ・病院と地域の関係職（介護、福祉）と交流できる場作り。
- ・この様な現場のスタッフの声を多く聞かせてもらうことで、怖いイメージが安らいで連携が取れると思う認知症も多くなり、今後連携する事が特に必要。
- ・精神科病院に通院しなければいけない患者と地域の偏見は消えてはいません。必要な知識が低いので学習会などは必要かと思います。
- ・病気に対する理解と対応に対する知識を深める必要があると思いますので勉強会？など情報を広める取り組みが必要だと思います。
- ・研修会して頂くことで、顔が繋がりが出来たりするので、グループワークをしてはかがかかと考える。
- ・精神科病院から地域に退院された事例を共有し、連携についてお互い考える会があればいいなと思いました。
- ・精神科病院の職員と地域の関係者との合同研修会。
- ・病院の都合ではなく、地域目線での精神科救急の在り方。
- ・連携室との関わりが持てないので、今後連携を深めていくためには何が必要なのか知りたい。

4.本日の研修会で特に印象に残ったことは何でしょうか？

(自由記載)

- ・拘束具を初めて見せていただき、少し驚きました。
- ・精神疾患各々の症状の発生～症状の説明が2時間という短い時間に詰め込みすぎ、難しく受け取れた。個々をパート1～というように分けて学べた方が分かりやすいように感じた。
- ・入院や治療について疾患別に詳しく知ることが出来ました。
- ・隔離や拘束が必要な方への対応等。過酷な現場だと感じました。
- ・病院内の間取りや、隔離病棟などの写真で説明してくれたところ。
- ・拘束、隔離病棟について。

- ・ 質疑応答。
- ・ 質疑応答での実際の話。
- ・ 質疑応答で具体的なことが分かりました。今回の研修会で、普段あまり知ることのない精神病院のことについて興味を持てるようになりました。
- ・ 精神疾患についてざっくり理解できた。
- ・ 精神病院のしくみや内容、治療の内容について理解することが出来ました。
- ・ 疾患についての症状が分かりやすく良かったです。
- ・ 精神疾患の説明。
- ・ 注意サインのことなど。
- ・ 精神疾患にはたくさんの種類があり、その状態に対して適切な治療や対処方法が違うことを学ぶことが出来ました。24時間精神障害の相談窓口があることも学ぶことが出来ました。
- ・ 精神病院の各病棟での対応方法の違い等学ぶことが出来ました。
- ・ SSTの方法。
- ・ SSTの事がもっと知りたかった（最後に聞いて良かった）病識のない人をどうしたらいいんだろう。
- ・ 精神構造論について印象に残り、良い勉強になりました。
- ・ 病識のない方の受診誘導。
- ・ 入院形態についての内容はおおまかにしか理解していなかったもので、勉強になりました。
- ・ 専門的な内容でしたが、わかりやすく説明して頂きました。SSTについてはもう少し詳しく勉強してみようと思いました。
- ・ 自立支援に向けての取り組みとしてSSTについて知ることが出来て良かった。
- ・ 精神科病院の院内の写真を初めて見たので印象に残りました。
- ・ 隔離病室の実態。身体拘束についての必要性。
- ・ 精神病院の病棟の内容や部屋の状態。治療法について。
- ・ SST。
- ・ 精神科病院における身体拘束について。
- ・ 隔離の部屋では尊厳を守りながらも、入室してもらうようにしている様子、緊迫感が伝わってきた。解放感、清潔感があり、良い環境だと思った。
- ・ 拘束について、本日の講演では状態を見て必要と思われたが、最近のニュージーランド人の拘束による死亡問題を見て、世界との拘束に対する考えについて違いがあるように思われた。
- ・ 入院形態の説明。
- ・ 質問に答える形式での説明が分かりやすかった。
- ・ SST。質疑応答。
- ・ 病院側の受け入れ体制が十分に整っているのだなと感じましたが、心療内科ですら受診する事に理解して頂けないし、自分も娘の事で相談したいときにハードルが高かったです。お年寄りが必要でなくても主治医を尋ね、お話が大好きなので身近な医療機関から専門機関への連絡が出来、ケアマネや家族を招いて話し合い、少しでも早く治療に取組めればいいのにと思います。
- ・ 紀の川病院で統合失調症の患者が74%と聞き、驚きました。
- ・ 精神科病院の保護室等の写真を初めて見れたのが印象的でした。
- ・ 拘束時の「ごめんね」等の優しさの看護。関心を持つ大切さ。SST。
- ・ 退院してからの取り組みとしての患者のあり方。

- ・ SSTを行っていること。
- ・ 質問に対する回答も印刷しておいて欲しかった。
- ・ やはり、隔離、身体拘束についての内容は印象的でした。
- ・ 現実には起こっている諸問題について、特に患者さんの病識の説得については、とても印象に残った。
- ・ 隔離室や拘束の写真。実際の様子やご苦労が分かりました。質疑応答の時間では、具体的なお話を聞くことが出来、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 精神病院の取組みが良く分かった。

5.今後の研修会で取り上げて欲しいテーマがあればご記入下さい。

(自由記載)

- ・ こころのケア。
- ・ カウンセリングの技術（聴く力）。ビジネスマナー。
- ・ 在宅に帰るまで、帰ってきてからの実際の事例や関りについて。（精神科に限らず）
- ・ 色んな事例についてどのように支援を施したか研修で取り上げて欲しい。また、困難な事例についての検討会の場を設けてほしい。
- ・ うつ病について。勝手に薬をやめない方法。
- ・ 高齢者医療について取り上げていただきたい。
- ・ 精神病院の退院支援の取組み。
- ・ 身寄りのない方の援助について、事例などがあれば取り上げて欲しいです（成年後見以外の支援の方法）
- ・ 生活保護受給者に対しての支援。ケースワーカーとの連携について。
- ・ 今回のように、高齢者だけでなく、その他の疾患について学んでいきたい。
- ・ 前に一度、精神科病院につないだ利用者がありました。入院後も何回かカンファレンスに参加しましたがとてもよく見て頂いてるなと思えました。精神薬に関しての研修会を開いて欲しいです。
- ・ 医療との連携は最新のものを・・・ありがとうございました。
- ・ うつ病、幻覚、幻聴のある方とどのように声掛けし、心を開いて頂けるかを知りたい。
- ・ 不穏な状態になった利用者さんへの対応方法。
- ・ 当デイから日頃の状況を書面で主治医に伝えたり、時には家族様が認知症外来を受診して下さるまでに至っても「普通のおばあちゃんね」で済まされることもあり、先生（お医者さん）は理解して下さらない、関心を持って下さらない時は、自分たちの無力さを痛感します。
- ・ 看取のケア。嚥下マッサージやケア。機能訓練。この時間を大切にします。有難うございました。
- ・ 精神障害緊急時の対応。
- ・ 精神障害者の再入院を防ぐ方法。
- ・ 和歌山でもいい研修があればいつも思います。
- ・ 服薬忘れや薬局との関わりについてなど知りたいです。
- ・ 往診してもらえる精神科医があれば教えて欲しい。社会資源について。